

## 【指定就労継続支援 A 型事業所 経営改善計画書と結果】

事業所名称	クリーンライフ陽風堂	代表者氏名	管理者 伏見 健宏
事業所所在地	夕張郡長沼町銀座南1丁目1番8号		
連絡先	電話番号	0123-88-2559	FAX番号 0123-88-2559
職員数	6 定員	10 利用者数	10 (うち身体 0 知的 10 精神 0 その他 )
事業所の設置主体	社会福祉法人	民間企業	NPO法人
設立年月日	昭和53年8月13日		
改善計画期間	平成30年 4月 1日 ~ 平成31年 3月 31日 (1年間とすること)		

1 具体的改善策と結果  
(詳細かつ具体的に記載すること)

(具体的改善策)	(結果)
別紙参照	

## 2 計画期間を通じて実施する事業内容と結果

計画期間を通じて実施する事業内容	計画期間を通じて実施した事業内容
一般衣類のクリーニング、老人保健施設等入居者の私物衣類クリーニング、自衛隊駐屯地の寝具等クリーニング、消防署の毛布等のクリーニング、温泉宿泊施設・ゴルフ場・キャンプ場等リネンリース/クリーニング、布団乾燥等	

(※) 事業内容には、生産活動の内容、対象顧客、市場動向、競合相手の動向、改善後の事業内容に主に従事する者の数や属性（どのような資格、経験等を持った者が担当するか等）について詳細に記載すること

## 3 計画期間を通じて達成する事業収入目標額（1年間の額を記載）と結果

計画期間を通じて達成するべき目標収入額	計画期間を通じて達成した収入額
32,150,000 円	円
(積算根拠) 平成29年度の実績をもとに、平成30年度に想定される取引状況、工場稼働状況、その他を勘案し、月次に算出した見込み額を合計し概算。利用者に対する支払い総賃金額を上回る数値目標と定めた。	(主な費目)

(注) 目標収入額は、「平均利用者数×平均労働時間×最低賃金額×平均利用日数×12か月」以上の額でなければならない。

## 4 計画期間を通じて達成する必要経費の見込額（1年間の経費を記載）と結果

計画期間を通じて見込まれる経費	計画期間を通じた経費
20,106,000 円	円
(積算根拠) 平成29年度の実績をもとに、平成30年度に想定される取引状況、工場稼働状況、その他を勘案し、月次に算出した見込み額を合計し概算。	(主な費目)

## 5 生産活動に係る事業の収入－生産活動に伴う必要経費（見込みと結果）

計画期間後の「収入－経費」（見込み）	計画期間後の「収入－経費」（結果）
12,044,000 円	円

## 6 計画期間後の利用者の総賃金額（見込みと結果）

計画期間後の支払い総賃金額（見込み）	計画期間後の支払い総賃金額（結果）
11,062,000 円	円
(積算根拠) 10名 × 5h/日 × 当該月の日数－8日 × 最低賃金額 で月次の見込み額を算定し合計。	(積算根拠)

## 7 5の結果から6の結果を引いた額

982,000 円	円
-----------	---

## 8 工賃変動積立金など（7がマイナスの場合に補填できる積立金の額）

※ 8の工賃変動積立金などがある場合は、その積立額を確認できる書類を添付してください。

事業所代表者署名欄 伏見 健宏 (印)

※社会福祉法人会計基準に基づく会計書類等、上記5、6の計画期間後の収入と経費、総賃金額が確認できる書類を添付してください

クリーンライフ陽風堂

就労継続支援 A 型事業所の経営状況について

平成 28 年度※年度末決算による実績 (円)

「黒字」

①利用者賃金総額 【A】	②生産活動収入額 【B】 ※1	③生産活動必要経費 【C】 ※2	④生産活動収支 【D (B-C)】	⑤他会計からの充当額 【E (A-D)】
6,154,485	26,597,662	20,247,203	6,350,459	▲159,974

平成 29 年度※年度末決算による実績 (円)

「赤字」

①利用者賃金総額 【A】	②生産活動収入額 【B】 ※1	③生産活動必要経費 【C】 ※2	④生産活動収支 【D (B-C)】	⑤他会計からの充当額 【E (A-D)】
9,595,497	32,727,430	24,167,249	8,560,181	1,035,316

平成 30 年度※9 月末における実績 (円)

「黒字」

①利用者賃金総額 【A】	②生産活動収入額 【B】 ※1	③生産活動必要経費 【C】 ※2	④生産活動収支 【D (B-C)】	⑤他会計からの充当額 【E (A-D)】
5,211,505	17,110,542	11,090,615	6,019,927	▲808,422

※特定求職者雇用開発助成金等の各種雇用関係助成金は含めない。

※原材料費や生産活動にかかる経費(厨房リース費等)を計上。光熱水費・燃料費等も使用する場合は計上。

平成 29 年度の調査時におきましては、平成 28 年度末決算の実績に基づき、利用者賃金総額から生産活動収支を差し引いた額がマイナス(黒字収支)としてご報告させていただきました。しかしながら、平成 29 年度末決算の実績につきましては、上記のとおり、他会計からの充当額がプラス(赤字収支)との結果となりました。

この結果につきましては、短期的には一時的な支出の増加がその主な原因と考えております。昨年 2 件の宿泊施設のリネンリース/クリーニングの受注獲得に至り、平成 29 年 12 月より新規の取引を開始しました。安定的/継続的なりネン品の供給に支障をきたさぬよう必要な準備として、事前にリネンリースに供するリネン資材を品目ごとに必要に応じて購入し取引開始に備えましたが、この費用の合計が 2,765,210 円程となっており、平成 28 年度決算における生産活動必要経費の額に大きく反映されているところです。

このリネン資材は、所謂リース用資産としてこれから利益を生み出していくものです。昨年 12 月の新規取引開始から本年 3 月の決算までの中では、この費用分を回収することは叶いませんでしたが、この支出につきましては、経営を更により良いものにしていくための、明確な目的を持った必要な先行投資との位置づけをさせていただければと考えております。

そして、この新規取引が平成 30 年度の売り上げ増を齎しています。下表が新規取引先の今年度における売上ですが、4 月から 9 月までの実績で月平均 575,963 円の売り上げとなっています。

当該新規取引先の平成 30 年度月次売上 (円)						
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	年度累計
446,817	474,066	502,397	630,167	875,875	526,459	3,455,781

先にお示した平成 30 年度 9 月末実績にあるように、今年度は現在のところ、利用者賃金総額から生産活動収支を差し引いた額がマイナス(黒字収支)に転換しております。

今後、当事業所のようなクリーニング工場において考えられる経営上の課題は、「市場の減少」、「他社との競争激化」、「燃料・材料の価格高騰」等があげられます。「客数/取引先の減少」、「客単価の減少」は直接売上げの減少に結びつきますから、極めて深刻な課題となる可能性があります。そして「コストの上昇」も利益を圧迫します。売上げの減少を食い止め、費用の増加を軽減するため、今後どのように取り組みを進めるべきか考える必要があります。

当事業所では、宿泊施設等へのリネンの供給の他、一般クリーニングも行っております。外交担当者を配置し、長沼町、南幌町、由仁町の一部等の個人宅、企業、介護施設等への集配も行っております。また、店舗/工場併設となっており、急ぎの対応や技術が必要な対応にもクリーニング師が直接対応をとることができます。これらの強みを活かしてサービスの更なる充実向上を図り、リネンリース/ホームクリーニングの一体的な営業強化を行います。既存取引先企業のグループ事業所等への営業活動も有効な手段であると考えております。また、工場運営におきましては、従業員の技能の更なる改善向上を行い、作業工程を改善し、生産性/生産効率の向上/経費の圧縮を図ります。

今年は9月に発生した地震の影響もあり、年度当初の見込みより売上げが落ち込んでいる部分もありますが、当事業所といたしましては、下半期、そして来年度以降も何とかこの黒字収支の状況を維持継続できるよう短期および中長期的に取り組む対応策を検討しながら経営努力をして参りたいと考えております。

